

広域的地域活性化基盤整備計画 北信濃・善光寺・松代地域(事業区分:広域連携)

1. 地域の現状と課題

【現状】

県内でも有数の観光地である北信濃地域は、平成9年をピークに観光入込客数が減少傾向にあり、特に最大の観光資源であるスキー場での落ち込みが著しい状況にある。

また、全国的な観光地である善光寺・松代地域については、近年、歴史施設の観光開発のため、松代城の再建等の施設整備や復旧事業が進められている。

【課題】

県内の新幹線や高速交通網等の整備にあわせ、観光拠点を結ぶアクセス道路の整備や、季節毎、地域毎に開催される観光イベントの連携を強めることが必要となっている。

全国的にも有名な善光寺、志賀高原と拠点整備が進められている松代地域や善光寺平の奥座敷として栄えた戸倉上山田温泉、湯田中温泉、渋温泉との連携の強化が必要である。

【整備方針】

- ・ 北信濃の志賀高原、野沢温泉、戸狩スキー場等と交通結節点との連結強化
- ・ 松代地区を拠点とした、周辺観光施設との連結強化
- ・ 善光寺、志賀高原と松代等との広域連携強化

2. 計画の目標

北信地域のスキー場の活性化、戸倉・上山田温泉施設の有効活用、歴史資産の松代の再整備、更にアクセス道路整備を推進し、広域観光の活性化を目指す。

3. 事業の内容

【計画の期間】 平成19年度～平成23年度(5年間)

【事業実施主体】 長野県

【計画の成果目標】

計画の成果目標	(現況値)	H23(目標値)
松代町観光客数	30万人(H15)	35万人
長野市中心市街地歩行者数	26万3千人(H18)	32万人
イライラハラハラ着手率	-(H18)	100%

【事業の主な内容】

基幹事業 : 道路事業16箇所

提案事業 : 地域自立・活性化活動推進事業 7箇所
地域自立・活性化基盤整備事業 1箇所

【箇所数と事業費】

	県	民間	計
基幹事業	16箇所 30.16億円	-	16箇所 30.16億円
提案事業	4箇所 0.78億円	4箇所 0.52億円	8箇所 1.30億円
計	20箇所 30.94億円	4箇所 0.52億円	24箇所 31.46億円

※事業費は精算額としているため、整備計画の事業費とは合わない場合があります

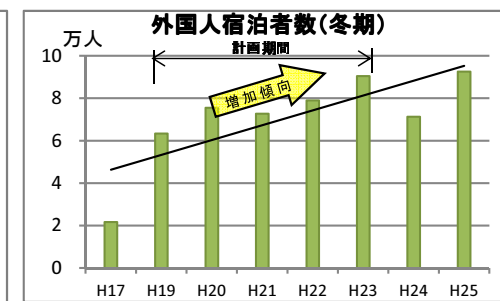
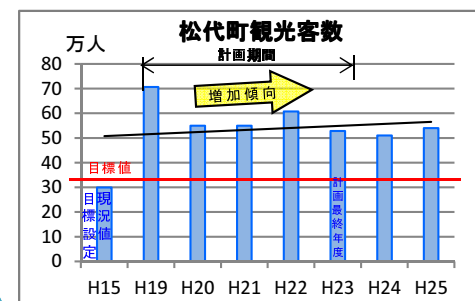
4. 事後評価の結果

【目標値の達成状況】

計画の成果目標	H23(目標値)	H23(実績値)
松代町観光客数	35万人	52万人
長野市中心市街地歩行者数	32万人	22万6千人
イライラハラハラ着手率	100%	100%

■事業効果の発現状況

- ・ 主要地方道長野真田線小島田工区4車線のバイパス整備により、周辺の観光施設とのアクセス性が向上した結果、松代地域の観光客数増加がみられ、観光振興に寄与したものと評価できる。
- ・ イライラ・ハラハラ箇所(松代、小島田)に着手し、小島田工区は完了、松代工区は事業を推進し、渋滞箇所の解消に寄与した。
- ・ 交通結節点とスキー場等を連携する道路整備やスキー場再生モデル事業の実施の結果、冬期の外国人宿泊者数の増加がみられ、誘客に寄与したと評価できる。
- ・ 道路拡幅箇所5箇所が供用開始し、改良率が向上した。(1.7km、0.1%)



5. 評価と今後の方針

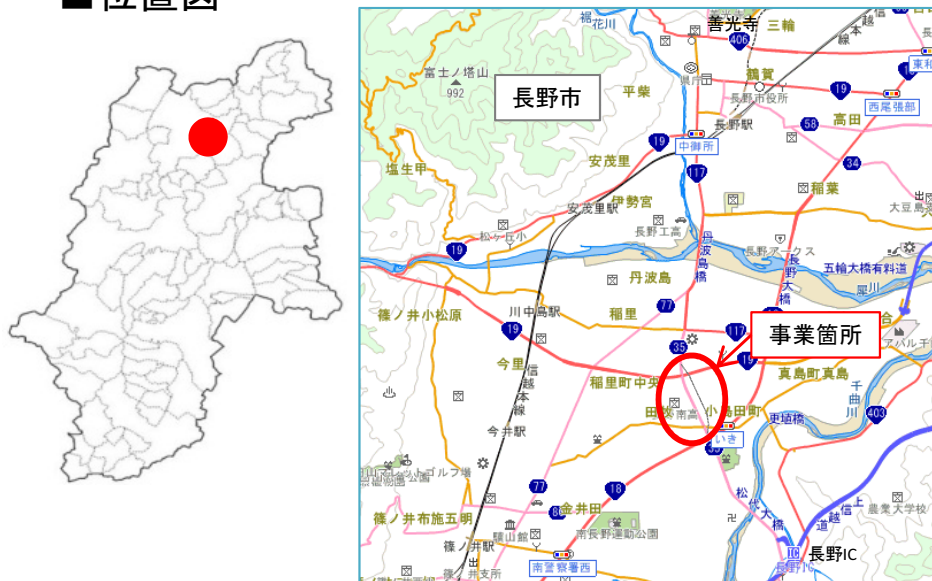
- ・ 達成していない成果目標もあるが、観光客の増加傾向がみられるなど、計画の目標に掲げた広域観光の活性化に貢献していると評価する。
- ・ 次期計画の策定にあたっては、目標値の達成状況等を検証し、整備方針に反映させていく。

広域的地域活性化基盤整備計画 北信濃・善光寺・松代地域(事業区分:広域連携)

整備効果事例

事例① 道路改築事業 (主)長野真田線 長野市 小島田

■位置図



■整備効果

整備前

整備前交通量 22,478台/日

整備後

整備後交通量 25,688台/日



朝夕を中心に慢性的な
渋滞が発生



4車線のバイパス整備により、
渋滞が解消し長野市街地と
松代地域のアクセス性が向上

事例② 街路事業 (都)坂都2号線 坂城町 田町

■位置図



■整備効果

整備前



道幅が狭く
すれ違いが困難

整備後



道路拡幅により、駅までの
アクセスを改善

広域的地域活性化基盤整備計画 北信濃・善光寺・松代地域(事業区分:広域連携)

整備効果事例

事例③ 交通安全事業 (国)292号 山ノ内町 一沼

■位置図



■整備効果

整備前



観光地における歩行者の
安全な通行に支障

整備後



歩車を分離し、歩行者の
安全を確保

事例④ 道路改築事業 (国)403号 木島平村 坂口

■位置図



■整備効果

整備前

旧道



道幅が狭く
すれ違いが困難

整備後

バイパス



バイパスの整備により安全で
円滑な通行を確保